

71

はじめから電子媒体専用としてつくられた社史はありますか？

●最もポピュラーなのはHTML形式です。

書籍としての制作を考えず、はじめからデジタル媒体ありきでつくられる社史も最近はみられるようになってきました。そうしたなかには、Q70で述べた電子ブックで制作された例もあります。最もポピュラーなのはWEBサイトと同じ技術（HTML形式）で組み上げたコンテンツです。当社ではわかりやすくするため、*WEB社史[®]と呼んでいます。

通常のWEBサイトと同じように、ムービーや映像コンテンツ、デジタル化した数値データなど、見たい内容を選べます。検索ができますので、データベースのようにも使えます。書籍より多くのことを記録してデータベースのように活用したい、あるいは、外部にメッセージを強く訴えたいという編纂目的にかなった方法といえるでしょう。

このタイプの社史は、DVDで配布したり、自社サイトに組み込んだりして外部に公開したり、閲覧者が限定された専用サイトをつくったりして活用されています。たとえば、社史閲覧の希望者が多いケース（テレビ局、鉄道会社など特定のファンが多い会社の社史など）

では、ホームページに掲載されていますし、経営層だけが見られる機密性の高いページをイントラネット（社内WEBサイト）上にもうけた会社もあります。また、スマートフォンやタブレット端末でも見られるように制作することができますので、取引先で自社の商品や研究開発の経緯を説明する営業ツールとして利用している例や、就職活動を行う学生に自社の歴史や魅力をアピールするツールとして活用している例もあります。

現状ではほとんどの場合、WEB社史と同時に書籍版の社史もつくられており、本編は書籍として制作し、資料編をWEB社史にしてDVDに収録して添付するといったハイブリッド型もありますが、前述のようにデジタル社史だけをつくるケースも始めており、今後は用途に応じて多彩なデジタル社史が増えていくのは間違いないでしょう。

ただ、WEBはページ数という概念が書籍とは違い、原稿量や写真点数が記録媒体の容量の許す限り、際限なく収めることができますので、あらかじめデータ量を決めておかないと原稿作成コストや校正コストに大きく影響するのでご注意ください。